



ここにあるすべてを、
かけがえのない
「宝もん」へ。

「ドローンから撮影した、阿賀野川上流域にある阿賀町室谷のブナ原生林」場所：阿賀町神谷丙

もくじ

地域再生の新しい展開や価値観を探るために

デジタル化と融合したリアルイベントの再開に向けて

今年度も新型コロナウイルスの感染は依然として続いています。ワクチン接種等が浸透し、感染のピークを過ぎて減少傾向も見られることから、私たちが暮らす社会も、少しずつ活動が活発化しつつあります。

こうした社会の変化を受けて、FM事業（※1）でも、この2年間はイベントを中止したりオンライン開催に切り替えて対応してきたところ、今年度になつてようやく以前の規模ではないものの、感染防止対策を徹底した上で対面式の座学やバスツアーを再び開催できる運びとなりました。

しかし、重要なのは以前とまったく同じ活動を取り戻すことではなく、この2年間で新たに着手したデジタル化の成果や恩恵を、いかにしてリアルイベントの再開に生かしていくかという点です。地域再生に新しい展開や価値観を生み出す可能性を探るべく、今号で告知するバスツアーやパネル巡回展にも、こうしたリアルとデジタル化の融合が試みられています。

※1「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。

この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

特集1 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2022	2
阿賀野川上・中流域の水のゆくえ、光と影をたどるツアー	4
特集2 令和4年度パネル巡回展	4
阿賀野川の水のゆくえ、光と影をたどる旅	6
特集3 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム第10回開催レポート	7
令和3年度ロバダン開催レポートほかお知らせ	8
インフォメーション	8

第24回 新潟水俣環境賞作文コンクール

県内小・中学校の児童・生徒の皆さんへ

の作品を募集します！

募集 2022年10月1日～2023年3月31日
発表 2023年6月

新潟水俣病や新潟県内の自然について思ったこと、身の回りの環境について考えたことや体験して感じたことなどを書いてください。皆さんの応募をおまちしています。

- 例えば、「新潟水俣病」「住んでいる地域の環境」「新潟の自然（森林・川・湖沼・海と環境問題）」「総合学習等で取り組んでいる環境問題」「水の安全、食の安全」について、体験したことや気づいたこと、考えたことを書いてください。
- 作文の応募はA4版400字詰め原稿用紙で、小学校1・2年生は600字～800字、小学校3・4年生は800字～1000字、小学校5・6年生は1000字～1200字、中学校1・2・3年生は1200字～1600字です。
- 優秀賞者には表彰状と図書カード1万円分を贈ります。佳作者には表彰状と図書カード3千円分を贈ります。
- 応募していただいた方全員に参加賞を贈呈します。

お問合せ先 ●新潟水俣病被害者の会 TEL025-281-2466 / FAX025-281-8101
（作文の送付先 ●〒950-0965 新潟市中央区新光町 6-2 勤労福祉会館 3 階 新潟水俣病被害者の会）

第23回

受賞作品発表

第23回作文コンクールの授賞式が開催されました！

このコンクールは、新潟水俣病被害者の「こんな苦しみは自分たちだけでたくさんだ。子や孫に同じ苦しみを味わわせてはならない」という切なる思いから、次代を担う子どもたちに身の回りの環境に関心をもってもらおうと、新潟県内の小・中学生を対象に毎年開催されています。



優秀受賞者と作品テーマ

◆小学校5・6年生の部

「未来の自然のために」

水島蒼介さん
（新潟市立住吉小学校5年）

「一つの行動が未来を変える」

神田絆さん
（新潟市立住吉小学校5年）

「新潟水俣病の苦しみ」

黒崎優奈さん
（新潟市立住吉小学校5年）

◆中学校の部

「人間は……」
板垣陽菜さん
（新潟大学附属新潟中学校2年）



主催：新潟水俣病被害者の会、新潟水俣病阿賀野患者会 後援：新潟県・新潟県教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、阿賀野市・阿賀野市教育委員会、五泉市・五泉市教育委員会、阿賀町・阿賀町教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、エフエムラジオ新潟、ほか

「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」（略称FM事業）と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え〜とこだ！憲章（事業理念）

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

（阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会）

編集後記

第35号はいかがでしたでしょうか？

今年も新型コロナウイルスの流行が続く中、これまで完全オンラインで開催していた座学イベントを、今年度はハイブリットで開催し、中～上流域を舞台としたバスツアーも催行することになりました。ご都合がよろしい方は、ぜひお気軽にご参加ください☆

3月発行予定の次号もご期待ください！



今号表紙の写真「流域上流のブナ林」

阿賀野川の上流にある最大の支流・常浪（とこなみ）川の上流域にはブナ原生林が広がり、阿賀野川に清らかで豊富な水量を供給している。そのうちの県境近くのブナ林を、ドローンから上空撮影した一枚。

阿賀野川え〜とこだより 第35号

発行：新潟県（※環境省補助事業） 発行日：2022年10月11日
企画編集：一般社団法人あがのがわ環境学舎（〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1）

TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え〜とこだ！流域通信

<https://aganogawa.info/>

// え〜とこだよりのバックナンバーも見えます！ //

